令和元年度　各種アンケート結果分析　（食物栄養学科）

IR 副委員長　澤辺桃子

1.　保護者アンケート

食物栄養学科保護者の回答数は 41 件（50.6%）であった。教育内容について、満足しているが 73.2%であり、満足していないとの回答はなかった。本学からの情報提供については、就職支援や就職状況に関する情報が求められている。食物栄養学科は、主な就職先の 1 次試験を本学で実施し、就職活動に関する学生の経済的負担を軽減していること、本学として、遠方の就職活動に関しては、領収書等の必要な書類を提出することで、補助していることを広く周知する必要がある。ホームページでの就職・進路に関する情報の提供を適切に更新する必要がある。

本学に関するイメージに関して、ネガティブな回答について、以下のような対策を検討できる。全体として、**学生の立場、保護者の立場にたった対応、情報発信が不足**しており、本学のブランドイメージの構築が不十分である。

◇報告・連絡・相談がなっていない。先生同士・事務など全体が把握できていない。
→クレーム対応の基本、社会人の基本がなっていない、との指摘である。
たった一度の連絡ミス等も保護者からすると、すべてが「なっていない」との判断になる。教職員一人ひとりが、気を抜くことなく、常に丁寧で確実な対応を心がける。失敗した場合は、速やかに適切な対応を検討し、ミスを広げない、隠さない、プラスにもっていく努力を徹底する。

◇短期大学と言う名前からとても立派な感じがする。色々なことをしていると思うが一般の人には何も情報は入ってこない。
→情報の発信不足。積極的に学内情報を**発信する**（新聞、HP 等）

◇函館大学に比べ、活気が無い。クラブ活動など。
→学生の活動を積極的に**発信する**（新聞、HP 等）

◇他の短大に比べお金がかかっている
→お金がかかっている印象をもつのは、**対価が少ないと感じている可能性がある。**
　期待以上の学生への教育・支援、事務対応、保護者への情報提供に努力する。
　保護者の「期待」は、本学教職員の価値判断ではないので、常に、何らかの対応時には、満足感、納得感を確認する必要がある。

◇心から　栄養士、保育士を、目指して入学する子が、少ないように感じる
→入学後に目的を見失っていないか、あきらめていないか、を検証するとともに、
心から国家資格を目指す雰囲気を作り出す必要がある。

2.　卒業生を対象としたアンケート

食物栄養学科の回答は、13 件と少数であった。専門職としての就職が大半である本学卒業生は、仕事と本学での学びとの関連性が高く、役立った内容について具体的な科目名が多数挙がっていた。在学中に身に付けておく能力としては、**コミュニケーション能力**が高く、学生間だけでなく、年代の違いや様々な方とのやり取り（コミュニケーション）を授業や校外実習にて学べるように指導する必要がある。また、パソコンの技術習得を促すこと、給食実習等で、授業の進行上、教育助手等が準備してしまう内容についても、現場では自分たちが作業することを理解させる努力が必要である。

3.　就職先・進路先アンケート

食物栄養学科の主な就職先となる委託給食会社からの回答は、11 社、3 年以内離職率は、平均 11.8%であった。厚労省が発表している学歴別の離職率推移（雇用保険の加入をもとにしたもの）において、短大卒は H28 年 42.0 %で、近年 40%程度で推移しており、これと比較すると低い結果といえる。再就職の際に、国家資格をどのように生かしているのか、についての追跡ができれば、栄養士資格の価値を深く理解することに役立つと思われる。委託給食会社が求める資質・能力については、「協調性」が最も高く、実験・実習におけるグループごとの協調性を意識した指導が必要であると考える。しかしながら、コミュニケーション能力と協調性のそれぞれの定義を明確に区別することは難しいと思われ、社会人の基本である、「報告・連絡・相談」と仕事（実験・実習等）における協力姿勢を育む教育、学生指導に尽きると理解する。

以上

令和 2 年 3 月 28 日

令和元年度 函館短期大学 保護者アンケート 集計結果
分析（保育学科）

1．アンケートの実施方法

令和元年 8 月時点の全在学生（220 名）の保護者宛てにアンケート用紙を送付し、返信用封筒で回答を返信してもらう方法で実施した。アンケートは無記名式。

2．回答者に関する情報

アンケートは 81 件の回答を得た。

回答者に関する情報を以下に示す。

（1） 性別

（2） 在学生の所属学科

（3） お住いの地域

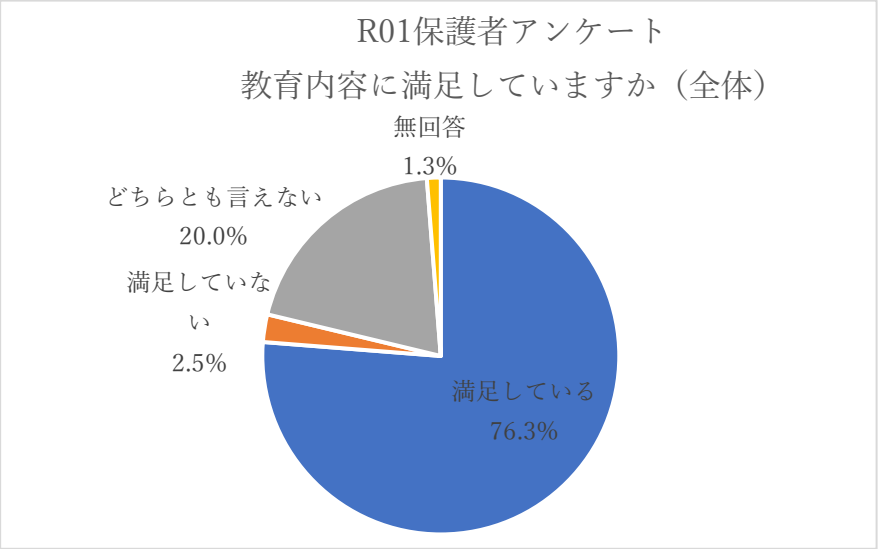
昨年度は、6 月の柏苑会（父母会）総会及び保護者懇談会に出席した保護者を対象にアンケートを実施し、27 件の回答を得ていた。令和元年度は全在学生（220 名）の保護者を対象に実施しており、81 件と回答数が大きく増加している。保護者の意見を把握するためには、この実施方法が有効である。

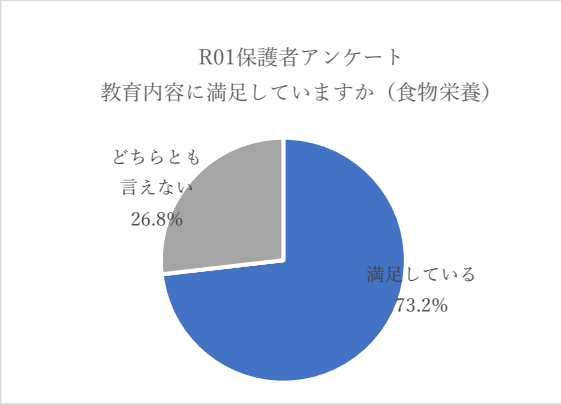
（1） 性別　（2）在学生の所属学科　（3）お住いの地域

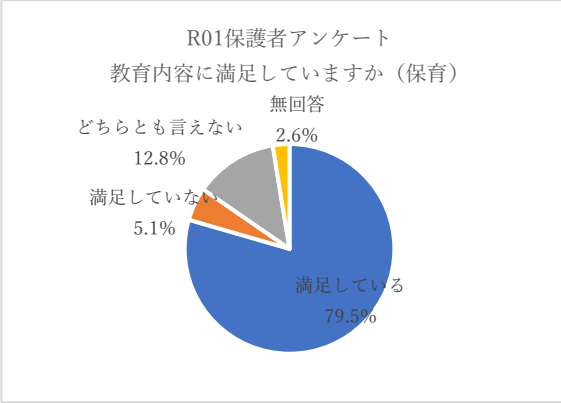
この 3 つの設問に関しては、データ数は異なるが回答割合はほぼ同じである。（3）お住いの地域に関してのみ、令和元年度「東北地方」の回答が若干多い（昨年度 22.2%、令和元年度 28.8%）。

3．設問に関する回答

（1） 函館短期大学の教育内容に満足していますか





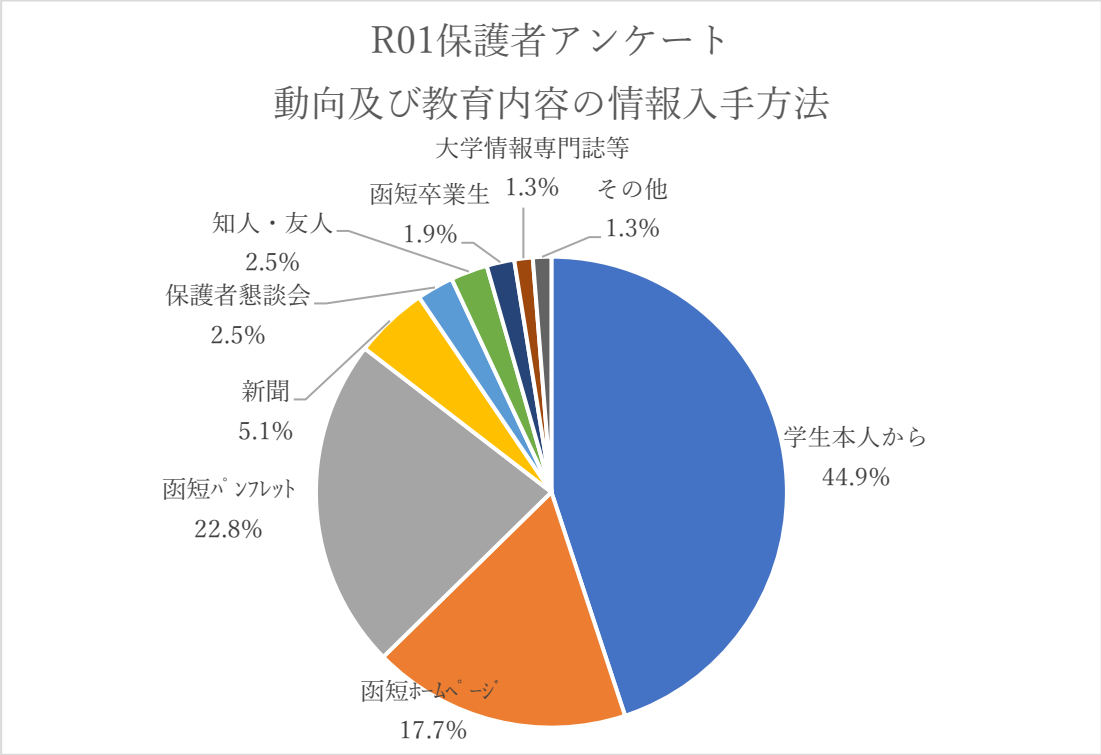


本学にとって最も重要と考えられる「函館短期大学の教育内容に満足していますか」の設問に対し、保育学科では、「満足している」が 79.5%と高い割合を占めていた。しかし、昨年度のアンケート結果は 91.7%であり、満足度が低下していることがわかる。また昨年度は「満足していない」との回答が０％であったが、令和元年度は 5.1%であった。この回答を重く受け止めるべきと考える。

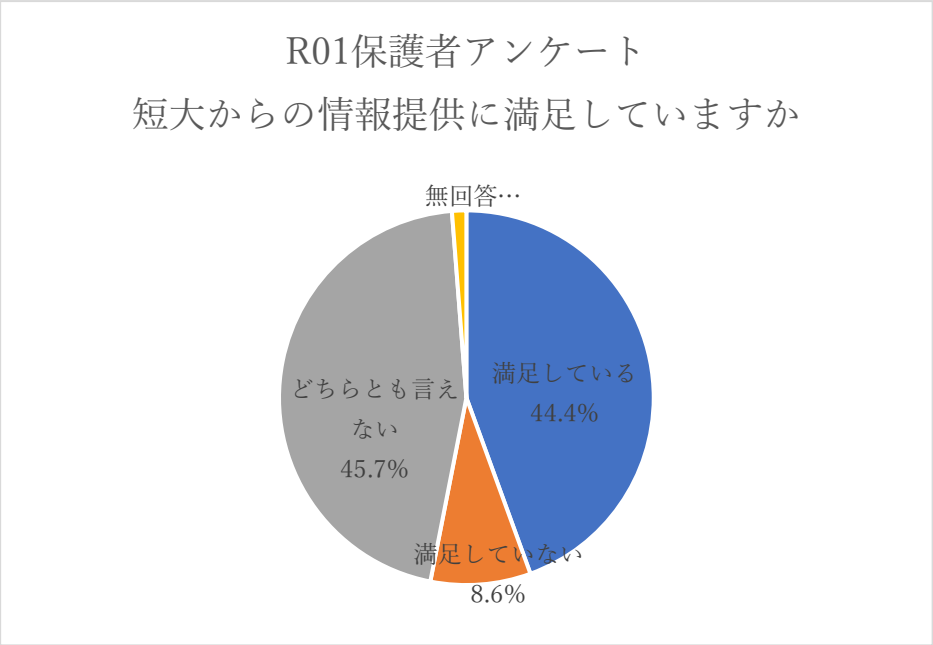
しかし、昨年度と令和元年度のアンケート実施方法が異なることから、単純に数字のみで比較することはできない。今後令和元年度と同じ実施方法を継続し、本学教育内容の保護者の満足度を正確に把握することが求められる。

（２） 函館短期大学での学びを通して在学生に身に付けて欲しいこと（複数回答）

（３） 函館短期大学の動向および教育内容の情報の入手方法（主なもの３つまで）



（４） 函館短期大学からの情報提供に満足していますか

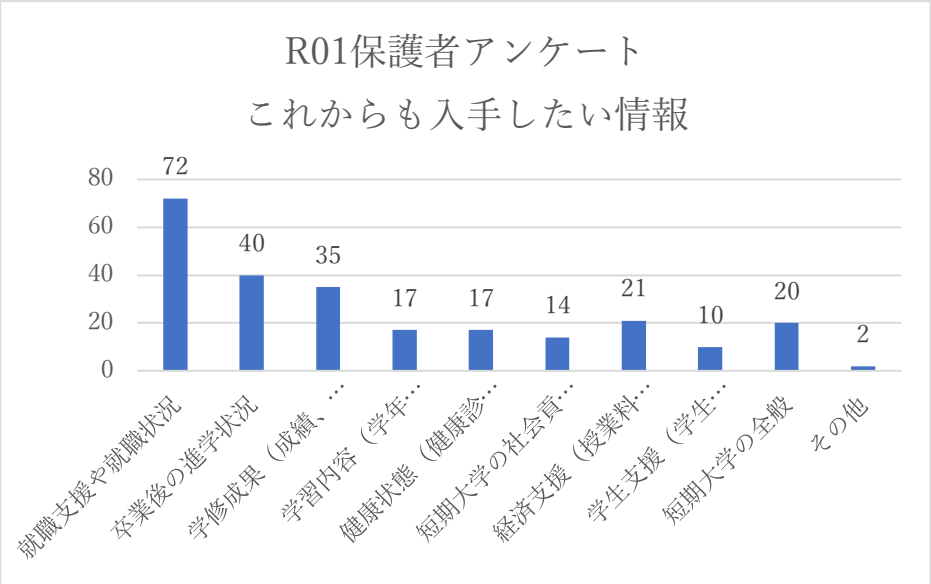


「函館短期大学の動向および教育内容の情報の入手方法」については、「学生本人から」「函短ホームページ」「函短パンフレット」の３つの回答を合わせると 85.4%であり、「学生本人から」の回答が 44.9%と最も高かった（昨年度は 38.3%）。学生本人からの情報が高い割合を占めることから、学生本人の満足度が保護者の本学の教育内容満足度にそのままつながると考えられる。学生本人の満足度の向上が最も重要な課題と考えられる。

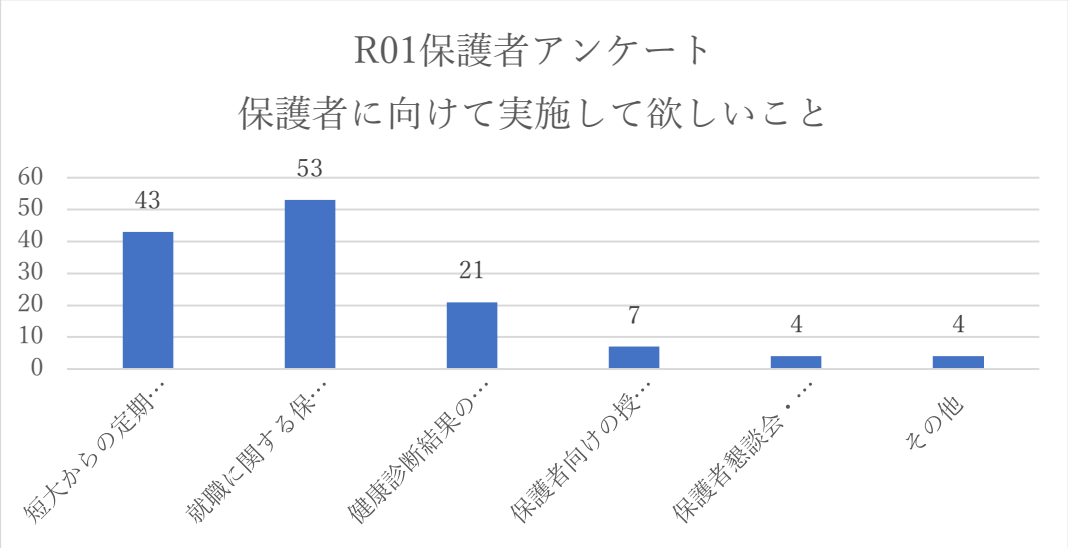
「函館短期大学からの情報提供に満足していますか」の設問については、「満足している」が 44.4%と半数に満たなかった。「満足していない」「どちらともいえない」を合わせると、54.3%と半数を超えており、本学の保護者への情報提供方法に改善が求められる。

しかし、本学は保護者への情報提供として、令和元年度より保護者に向けたニュースレターを２回発行している（8 月、2 月）。アンケート実施時期が１回目のニュースレター発行時期と重なるため、まだニュースレターが浸透していないと考えられる。情報提供に関する満足度を高めるためには、ニュースレター発行の継続、ホームページやパンフレットの改善が求められる。またアンケートを１年次の保護者がニュースレターを受け取った後に実施するなど、実施時期の再考も必要である。

（５） これからも入手したい情報（複数回答）



（６）保護者向けに実施して欲しいこと（複数回答）



保護者が「これからも入手したい情報」として、「就職支援や就職状況」が最も回答が多かった。昨年度と比較して増加が見られたのが「卒業後の進学状況」「経済支援（授業料免除、奨学金等）」であった。高等教育の就学支援新制度が令和 2 年度から始まることを受け、保護者のニーズが高いことが伺える。保護者が新制度を正しく理解するために、経済支援に関して、本学からの情報発信を検討することを提案する。

「保護者向けに実施して欲しいこと」については、入手したい情報と関連する「就職に関する保護者向け情報」の回答が最も多かった。就職先の情報については、本学ホームページやパンフレットで就職状況を公開していることから、保護者が入手したい情報が就職先と異なることも考えられる。就職先ではなく求人情報である可能性もあるため、設問内容を正しく把握するための検討も必要である。さらに「短大からの定期通信」との回答も多いため、前述のニュースレターのニーズが高いことがわかる。また、令和元年度は「健康診断結果の送付」が増加した。

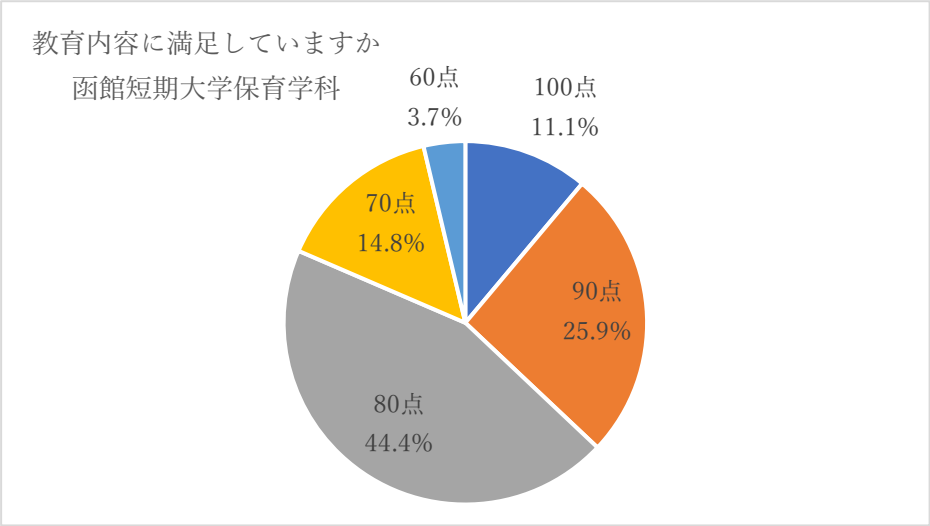
令和 2 年 3 月 28 日

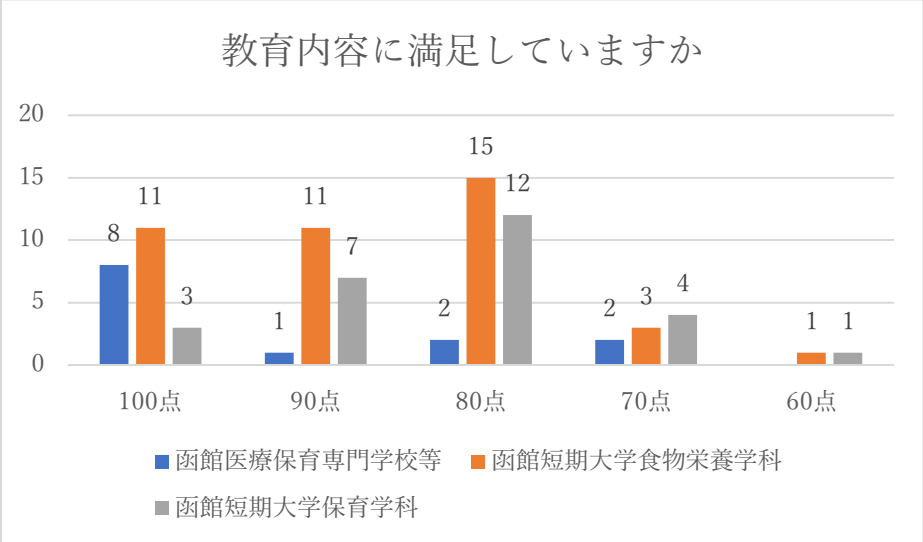
令和元年度　函館短期大学　卒業生を対象としたアンケート 保育学科分析

保育学科卒業生を対象としたアンケート結果のうち函館短期大学 27 名分（設問 3 は 28 人）のデータを分析した

１．設問に関する回答

（１）　卒業した学校の教育内容に満足していますか





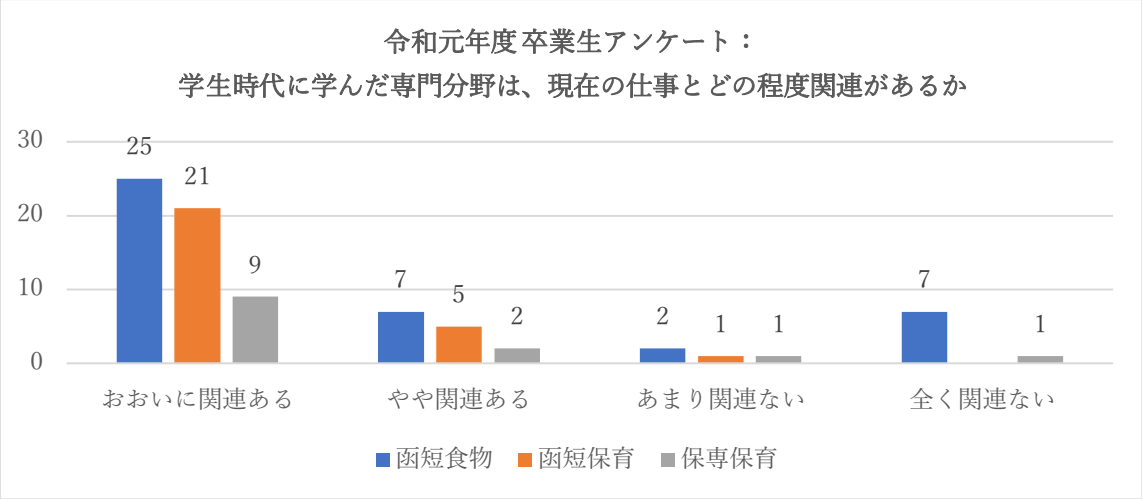
【分析】

「卒業した学校の教育内容に満足していますか」については、27 名の回答者のうち 81.4%が 80 点以上と回答しており、保育学科卒業生の満足度が高いことが伺える。50 点以下と回答した人はいなかったことから、概ね本学の教育内容に満足していたと考えられる。

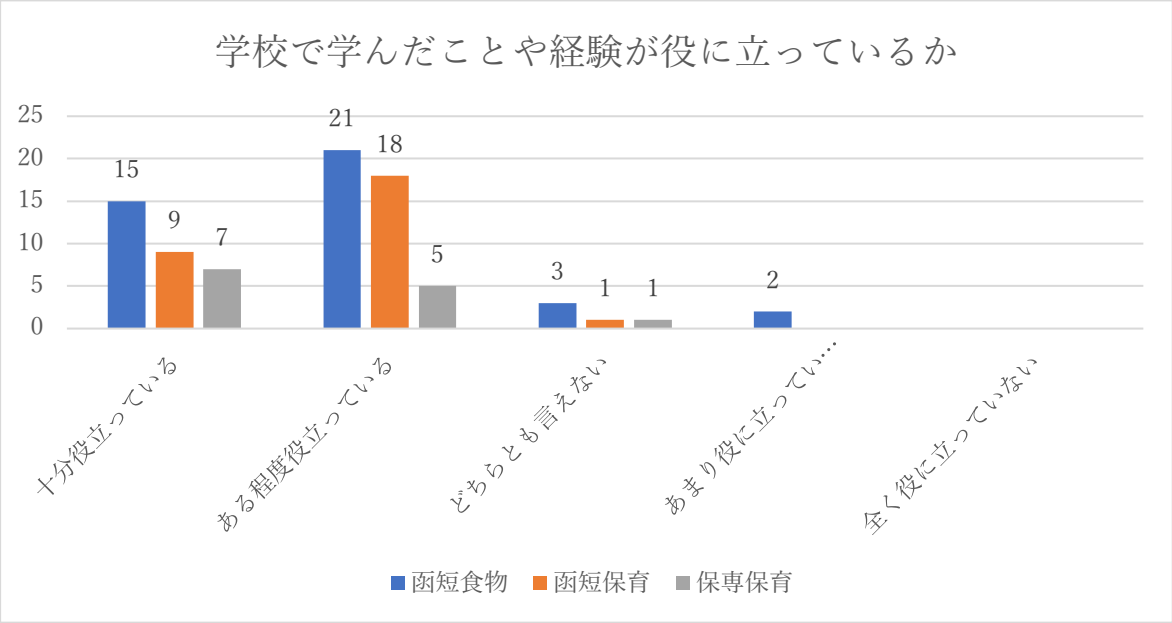
しかし、函館医療保育専門学校、函館短期大学食物栄養学科、函館短期大学保育学科の回答割合を比較すると、保育学科において 100 点、90 点の回答割合が低いことがわかる。この点を真摯に受け

止め、満足度の高い学生が少ない要因を探り、教育内容に対する満足度を上げていくことが求められる。

（２） 卒業した学校の学生時代に学んだ専門分野は、現在の仕事とどの程度関連がありますか



（３） 仕事や日常生活の中で、卒業した学校で学んだことや経験が役立っていると感じることはありますか



【分析】

「学生時代に学んだ専門分野は、現在の仕事とどの程度関連がありますか」の設問では、保育学科の卒業生は、27 人のうち 26 人が保育に関連する職業についていることがわかる。「学校で学んだことや経験が役立っているか」の設問でも、28 人のうち 27 人が「十分役立っている」「ある程度役立っている」と回答している。このことから、保育学科の卒業生は学校で学んだことを活かす職業に就き、学びを役立てながら働いていると考えられる。多くの学生が専門職に就いていることからも、本学の教育内容を充実させ満足度を高めることが、地域の保育環境の向上のために不可欠である。

令和２年３月30日

令和元年度　函館短期大学　就職先･進路先アンケート 集計結果
保育学科分析

１．アンケートの実施方法

平成 31 年 3 月卒業生の就職先の企業・法人を中心に 142 件の企業・法人宛てにアンケートを送付し、同封の返信用封筒で９月 27 日までに回答を求めた。アンケートは記名式。

２．回答者に関する情報

73 の企業・法人から回答を得た。 回答率　73/142×100＝51.4%

３．設問に関する情報

（１）貴企業・法人(事業所など)における函館短期大学卒業生の３年以内離職率は、何%程度か

保育園の場合

回答１１園　最小０％、最大１００％　平均２５．６％

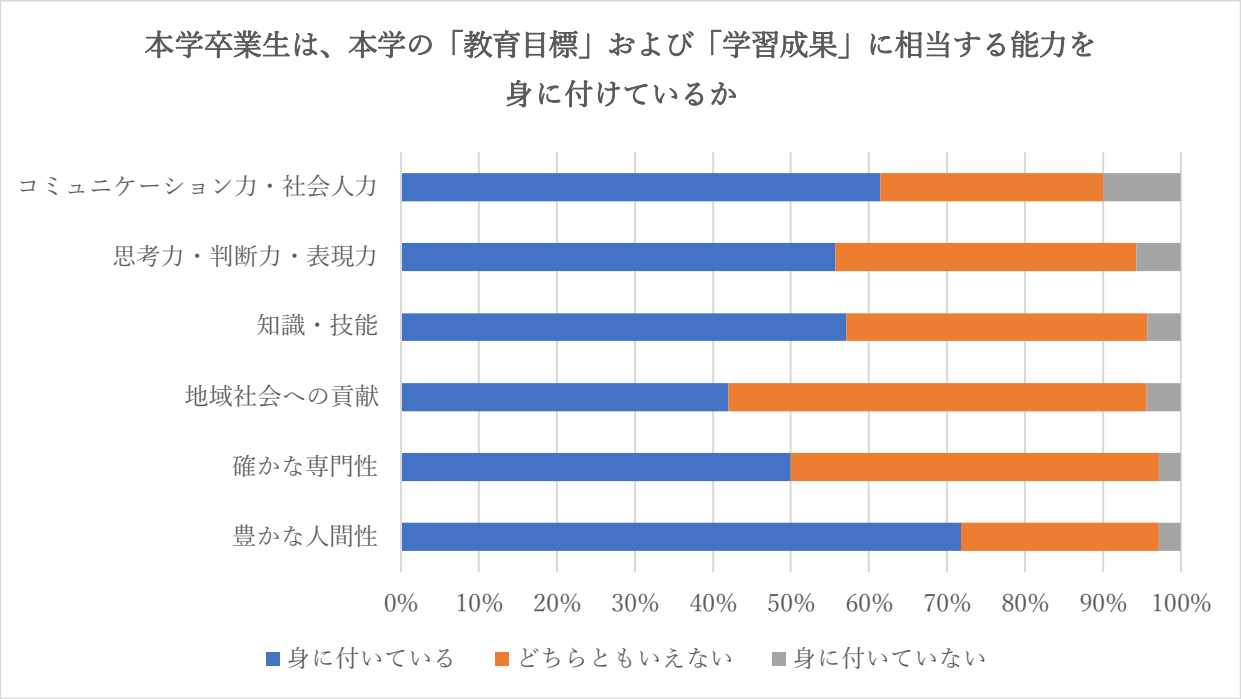
認定こども園の場合

回答１０園　最小０％、最大　５０％　平均１３．７％

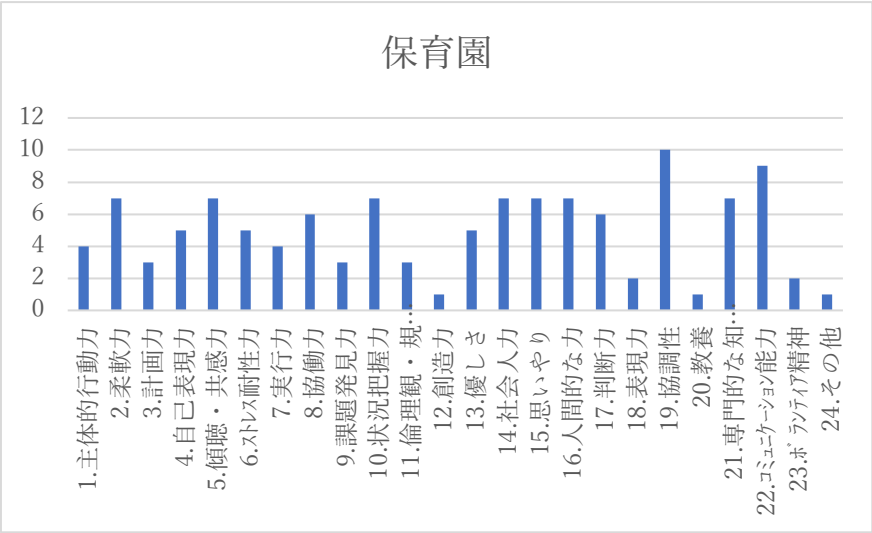
幼稚園の場合

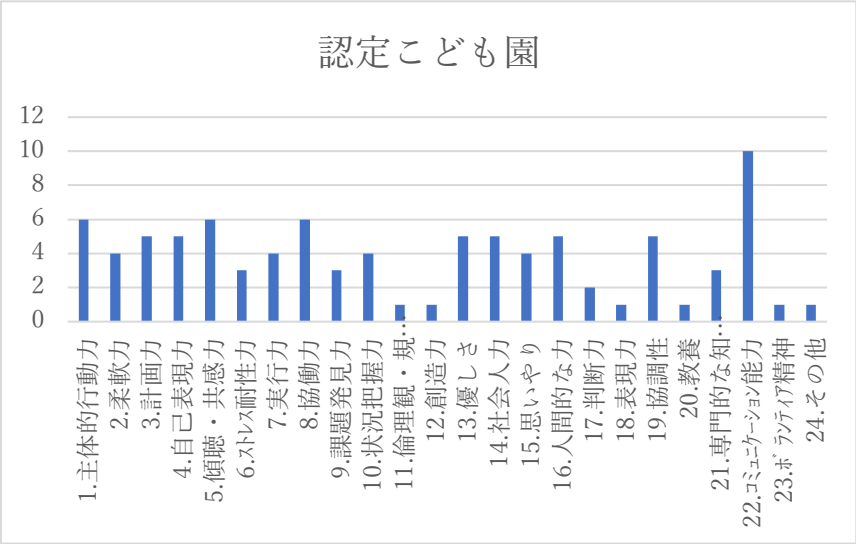
回答　４園、最小０％、最大　３０％　平均１４．０％

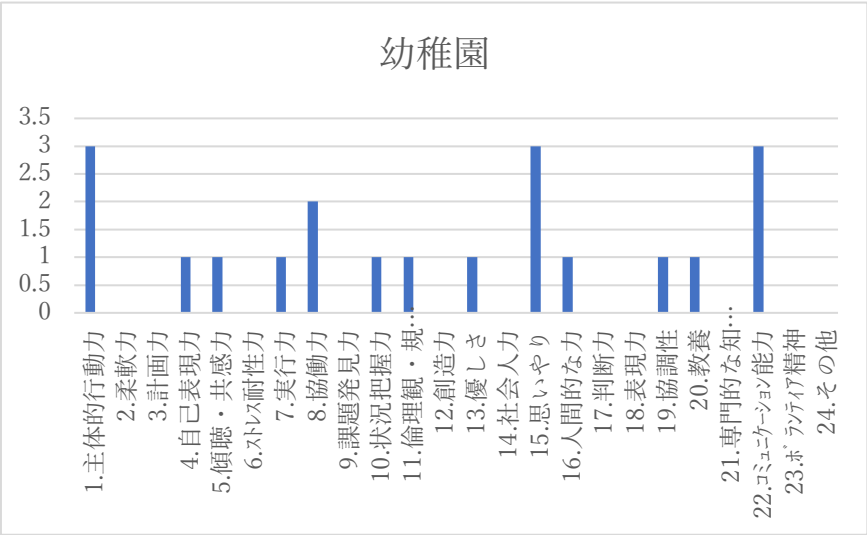
（２）本学卒業生は、本学の「教育目標」および「学習成果」に相当する能力を身に付けているか



（３）学生に求める資質・能力について（複数回答）







【分析】

（１）「函館短期大学卒業生の 3 年以内離職率」については、認定こども園 13.7%、幼稚園 14%と全体平均 11.8%～14.0%からの乖離は少なかったが、保育園は 25.6%と突出して高い離職率となっている。厚生労働省が公表している「新規学卒就職者の 3 年以内の離職率」（2015）をみると、3 年以内離職率は短期大学卒業生 41.5%、大学卒業生 31.8%となっており、全職種の離職率と比較すると、保育園の離職率は決して高くないととらえることもできる。しかし、給食受託、認定こども園、幼稚園と比較すると 2 倍近い離職率となっており、保育学科として離職の要因を分析し、就職先と学生のマッチング、新規開拓の就職先（特に関東圏）の現状把握など離職率を下げるための対策が必要である。

（３）学生に求める資質・能力について（複数回答）

「学生に求める資質・能力について」については、保育園・認定こども園・幼稚園ともに、「協調性・コミュニケーション能力・思いやり」との回答が多かった。また、幼稚園は「主体的行動力」の回答も多かった。

保育は幼児・利用者・保護者と関わる対人援助職であるため、就職先は人と関わるために必要と考えられる資質や能力を重要視していることがわかる。これらに対応する（２）「本学卒業生は、本学の「教育目標」および「学習成果」に相当する能力を身に付けているかまた」の質問項目「コミュニケーション力・社会人力」「豊かな人間性」についての回答をみると、「身についている」と回答した割合が、「コミュニケーション力・社会人力」61%、「豊かな人間性」72%であった。このデータは学科別に分かれていないため、保育学科としての分析は控えるが、両学科全体として本学学生は「豊かな人間性」は概ね身についていると評価されていると考えられる。「コミュニケーション力・社会人力」については、60%を超えてはいるがさらに力を入れていくべき項目であると考えられる。